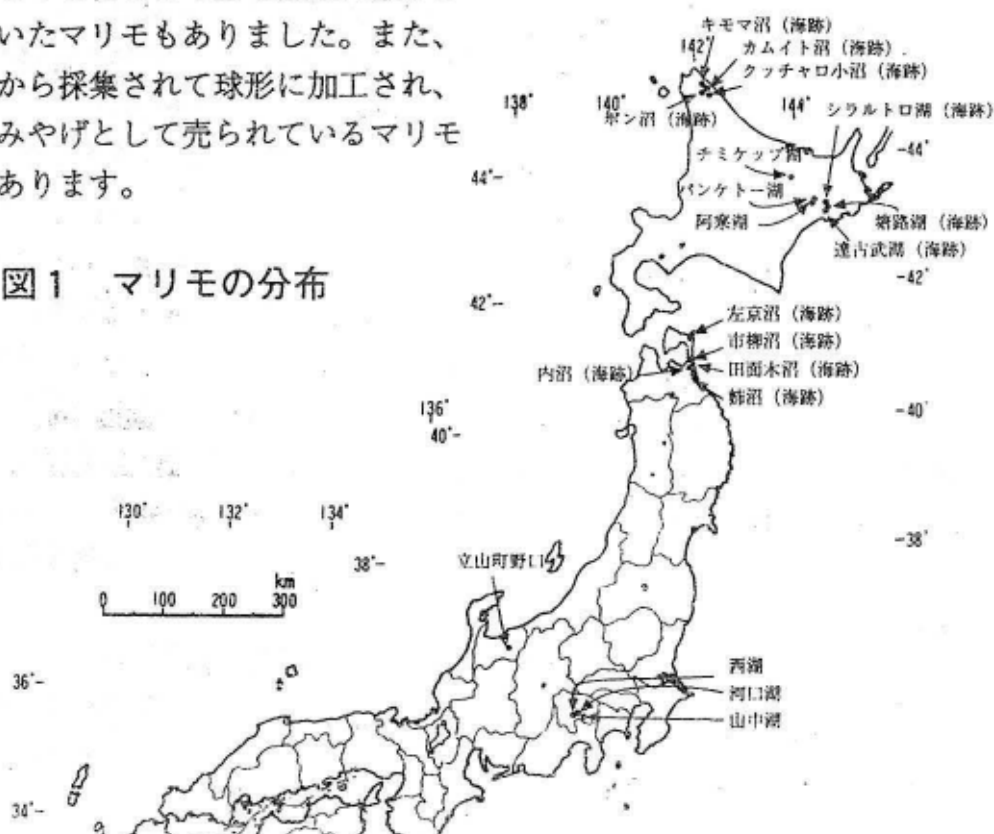


マリモがすんでいる湖

いろいろなマリモ

マリモはおもに淡水の湖に生育する太さ0.05~0.1 mm、長さ0.5~3.5 cmほどの多年生の藻類で、細長い体をとところどころ枝分かれさせて互いにかからませ、ボールのようになる特徴があります。最も有名なマリモは阿寒湖のもので、今から100年ほど前に国内では初めて発見されたものです。その形は、ビロードで出来た^{まり}毬のように美しく、非常に貴重な生物として国の特別天然記念物に指定されています。そのほかの湖のマリモは阿寒湖のものほどきれいな球形にならず、地域によっては、その見た目から「バフンソウ」とか「ベコのクソ」といった呼び名もあり、魚を取るあみにかかるじゃま物として湖の漁師に嫌われていたマリモもありました。また、湖から採集されて球形に加工され、おみやげとして売られているマリモもあります。

図1 マリモの分布



マリモの分布

マリモはヨーロッパや北アメリカなど北半球の寒い地域に分布しており、樺太や千島でも生育が知られています。日本では北海道、青森県、山梨県の一部の湖、そして、富山県立山町の一部の地域の民家の池と農業用水路にしかマリモの分布が見られません（図1）。山梨県は北海道や青森県に比べてずいぶん南にありますが、湖が標高900メートル程度の所にあるため、周辺の気温は青森県のマリモ生育地と同程度になります。

日本には面積1ha以上の湖が480湖沼ほどもありますが、マリモが生育している湖はこのうちのわずか18湖沼しかありません。しかも、マリモの分布は富山県も含めて飛び飛びになっていることが謎です。その理由はよくわかっていません。

マリモがすんでいる湖

国内のマリモ生育の中心と考えられる北海道と青森県について見てみると、マリモが生育している湖沼は15あります。このうち、山の中にある湖は阿寒湖とその隣にあるパンケトーを含めてわずか3湖沼しかなく、残りの12の湖は海岸近くにある湖です。これらの湖は海跡湖^{かいせきこ}と呼ばれ、海面が現在よりも数十メートル低かった氷河期（一万年以上前）にできた谷が、現在よりも気温が高くて海面も高くなった縄文時代（数千年前）に海底に沈んで湾になり、その後、海面が現在の高さまで戻る間に砂丘や砂州が出来てせき止められ、湖となったものです。この海跡湖の中でもマリモが生育している湖のほとんどは海水が全く入らない淡水の湖です。

海跡湖は、場所が違っていてもほぼ同じ時期に出来たものです。また、海跡湖ができた場所は川から流れ込む淡水によって塩分の濃度が低かった可能性があります。しかも、マリモは淡水に生育する藻類にしては塩分に耐える性質が強いのです。もしかしたら、国内のマリモの分布はこの海跡湖の形成と関係があるのかもしれませんが。この場合、マリモは縄文時代の海流を利用して分布を広げた可能性もあります。

最後に、マリモの生育している湖のいくつかでは、周辺の森林が切り開かれて牧場となり、さらに生活排水などの流入などによって湖の中の環境が変わり、マリモの絶滅が心配されています。（朴木英治）



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31 TEL(0764)91-2123

平成8年2月1日 発行